



飼料用米を活用したバークシャー種肥育後期飼料における収益性が高い粳米の配合割合

【1 成果の概要】

バークシャー種は背脂肪が厚くなりやすい品種で、厚脂による格落ちにより枝肉単価が安くなることが課題です。そこで、肥育後期飼料中の穀類を飼料用米に代替するにあたり TDN が低く安価な粳米と玄米を混合し、枝肉単価が高い豚肉を低コストで生産できる粳米の配合割合を検討しました。

- (1) 肥育後期用配合飼料に含まれる穀類 (75%含有) の全量を飼料用米に代替すると CP (粗蛋白質) は概ね 13%、TDN は粳米割合の増加に伴い 76%から 62%に調製できます (表 1)。
- (2) 飼料中の粳米割合を高めるほど日当りの採食量は減少し日増体量は低下します。飼料要求率は粳米 0%から 55%区は同等ですが、TDN 要求率は粳米 40%および 55%区で低下します (表 2)。
- (3) 飼料中の粳米割合を高めるほど背脂肪は薄くなり、枝肉等級の等外割合は粳米 40~55%区で低下し枝肉単価が高くなります (表 3)。
- (4) 肥育後期 (体重 70~110kg) の飼料コストを試算すると粳米 40~55%区が低くなります (図 1)。

表 1 試験区分及び飼料成分

試験区	n数	TDN (%)	一般成分 (抜粋) (%)		アミノ酸 (%)
			CP	粗繊維	リジン
粳米0%区	5	76	13.6	2.3	0.88
粳米10%区	4	74	13.5	3.0	0.88
粳米20%区	4	72	13.4	3.8	0.88
粳米30%区	9	70	13.3	4.6	0.87
粳米40%区	9	68	13.2	5.4	0.87
粳米55%区	4	66	13.1	6.6	0.86
粳米65%区	4	64	13.0	7.4	0.86
粳米75%区	4	62	12.9	8.2	0.85
B種飼料	—	74	13.8	3.6	0.85

※飼料中の穀類(75%)を全て飼料用米に代替
 ※日本標準飼料成分表(2009)原物中の値

表 2 発育成績

試験区	採食量 (kg/日)	日増体量 (g/日)	飼料要求率	TDN要求率
粳米0%区	3.5±0.1	804.1±100.0	4.38±0.57	3.42±0.47
粳米10%区	3.3±0.2	784.9±116.6	4.31±0.43	3.24±0.35
粳米20%区	3.4±0.1	785.2± 97.8	4.40±0.53	3.27±0.43
粳米30%区	3.2±0.4	739.8±111.9	4.39±0.49	3.12±0.31
粳米40%区	3.2±0.2	748.4± 92.5	4.34±0.46	2.97±0.30
粳米55%区	3.1±0.3	703.5± 89.7	4.38±0.30	2.89±0.19
粳米65%区	3.0±0.4	653.4±156.8	4.66±0.64	3.07±0.50
粳米75%区	2.9±0.1	600.2±120.4	4.93±0.84	3.04±0.48

※平均値±標準偏差

表 3 枝肉形質と枝肉単価

試験区	枝肉重量 (kg)	枝肉歩留 (%)	背脂肪厚 (背)(cm)	枝肉等級		枝肉単価 (kg/円)
				上中並	等外	
粳米0%区	74.5±1.7	67.8±1.6	3.5±1.0	5	4	633
粳米10%区	74.8±0.8	68.0±0.7	3.5±1.2			
粳米20%区	75.4±1.3	68.6±1.2	3.2±0.8	6	7	628
粳米30%区	73.8±1.2	67.1±1.1	3.2±0.8			
粳米40%区	73.4±1.8	66.7±1.6	2.8±0.4	12	1	655
粳米55%区	72.8±1.1	66.2±1.0	2.8±0.3			
粳米65%区	72.6±1.1	66.0±1.0	2.7±0.7	6	2	645
粳米75%区	71.4±2.9	64.9±2.6	2.4±1.0			

※枝肉重量は、各区 110kg で出荷した時の換算値
 ※枝肉単価は、上中並を 660 円/kg、等外を 600 円/kg として算出
 ※平均値±標準偏差

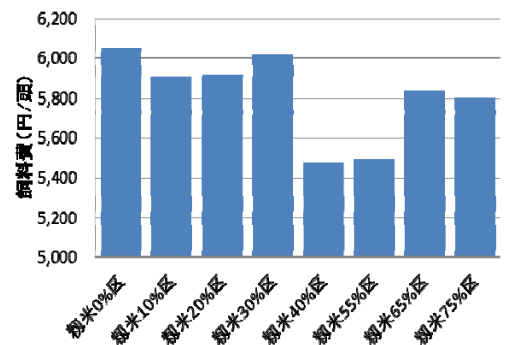


図 1 各区における飼料コスト

【2 留意事項】

粳米と玄米は県内産の飼料用米を利用し、飼料用米破砕機 0.2mm のローラー幅で破砕しました。本試験は、バークシャー種去勢豚を用い、血統が偏らないように各試験区に配置しました。

担当研究室 畜産研究所家畜育種研究室

〒020-0605 滝沢市砂込 737-1 TEL. 019-688-4328 FAX. 019-688-4327